



『なんで洞窟に壁画を描いたの?』

五十嵐ジャンヌ／著 中島梨絵／画
新泉社 ¥2,000(税別)

中学生の理乃は、祖父と訪れたラスコー展をきっかけに洞窟壁画の魅力に引き込まれる。飽くなき探究心から、ついに理乃は本物の洞窟壁画を巡るため、フランスへ出掛けることに…。興味を持ったことに正面から向き合う姿を描いた一冊。



『はじめてのニュース・リテラシー』

白戸圭一／著
筑摩書房 ¥840(税別)

SNSなどで誰もが簡単に情報発信者になり得る現代。新聞社で各国の特派員などをしてきた著者が、これから社会に出る若者に、溢れる情報の中から捏造や偏向を見極める力をつけるための方法を教えてくれる本。



『武器ではなく命の水をおくりたい 中村哲医師の生き方』

宮田律／著
平凡社 ¥1,400(税別)

戦争と干ばつの影響により荒廃したアフガニスタンの地で、長年復興支援に尽力した中村哲医師。彼の遺した数々の功績と、活動に込められた平和への願いが綴られている。平和のため私たちに何ができるのか、一步を踏み出す勇気となる一冊。



『平安男子の元気な生活』

川村裕子／著
岩波書店 ¥880(税別)

平安時代から浮かぶイメージは、ゆったり、優雅…いえいえ意外にも現代と共通点がある!?趣味に仕事に、恋にもアクティブな平安男子。彼らの姿から、平安時代をのぞいてみよう。あわせて『平安女子の楽しい生活』も読んでほしい。



『ミシシッピ冒険記』

ダヴィデ・モロジノット／著 中村智子／訳
岩崎書店 ¥1,700(税別)

20世紀初頭、ミシシッピ川の河口地帯に住む4人の少年少女が主人公。偶然手に入れた3ドルで憧れのピストルを注文したはずが、届いたのは壊れた懐中時計。しかし時計には驚くべき秘密が隠されていた。スリルとミステリー満載の友情物語。



『見た目が気になる』

河出書房新社／編 青木美沙子／他著
河出書房新社 ¥1,420(税別)

「見た目」をテーマに26人の芸能人、モデル、作家などの著名人が、顔や体型、服装などについて語る。社会学者、鳥類学者の視点から書かれた話も新鮮で面白い。自分や他人の見た目が気になる人に、ぜひ読んでほしい。



『ライブラリー・ツインズ』

日野祐希／著 あけたらしろめ／絵
アリス館 ¥1,400(税別)

中学生の菜織は高校への内部進学を逃し、救済措置で大学図書館のイベントボランティアをすることに。サポート役の双子の健史と時にぶつかり合いながらも、イベント成功のために奮闘する成長ストーリー。頑張る二人を応援したくなる一冊。



『ワラグル』

浜口倫太郎／著
小学館 ¥1,800(税別)

ワラグル…それは、笑いに狂うこと。ある者は漫才コンテストで日本一を目指し、ある者は放送作家を目指す。そして、また、ある者は愛する人の夢の実現を目指す。全力で戦い続けるワラグル達の熱い魂を感じる!



『零から0へ』

まはら三桃／著 ポプラ社 ¥1,600(税別)

『ボードレス・ケアラー』

山本悦子／著 竹浪音羽／画 理論社 ¥1,400(税別)

『なぜ私たちは理系を選んだのか』

樹太一／著 岩波書店 ¥1,450(税別)

『本当の「心の強さ」ってなんだろう?』

齋藤孝／著 誠文堂新光社 ¥1,300(税別)

『「ハーフ」ってなんだろう?』

下地ローレンス吉孝／著 平凡社 ¥1,600(税別)

『みつばちと少年』

村上しいこ／著 高山裕子／絵 講談社 ¥1,400(税別)

『文豪中学生日記』

小手鞠るい／著 あすなろ書房 ¥1,400(税別)